

## 良田平田遺跡で出土した木簡について

平成25年3月4日（月）

財団法人鳥取県教育文化財団調査室

### 1 良田平田遺跡の発掘調査の概要

#### (1) 調査期間

平成24年4月～10月

#### (2) 調査面積

4区 1, 500㎡

(平成23年度に調査済みの1～3区を合わせた良田平田遺跡調査総面積は6, 290㎡)

#### (3) 遺跡の時代・時期

弥生時代（紀元前1世紀）から室町時代（15世紀）

#### (4) 遺跡の特徴

平成23年度の調査によって、平安時代前半（9～10世紀）の掘立柱建物13棟、谷の西側と中央を流れる奈良～平安時代（8～9世紀）の溝2条、古代～中世（奈良～室町時代）の田んぼなどが見つかった。谷の西側と中央を流れる溝からは、木簡や硯、銅製帯金具などの官衙（役所）関連遺物が出土しており、木簡の中には米などの数量を表わした帳簿木簡がある。また、掘立柱建物の柱穴から国・郡・郷名（因幡国高草郡刑部郷）、人物の姓名（刑部口縄、孔王部廣公など）や年齢が記された労働徴発に係る記録木簡も出土しており、平安時代前半期には官衙（役所）関連施設が存在したと考える。

平成24年度は平安時代の建物群が見つかった地区の東側（谷奥部）を調査し、飛鳥時代末～奈良時代（7世紀末～8世紀）の掘立柱建物3棟、谷の中央を流れる溝の上流（東側）部分を検出した。溝の中から土器とともに、木簡や硯、銅銭「和同開珎」、木製祭祀具（人形や舟形）など多量の遺物が出土している。谷の中央を流れる溝は飛鳥時代に掘削されたが平安時代には埋め戻されており、谷奥部は平安時代以降耕作地として利用されていたことが明らかとなった。

その他の貴重な調査成果として、多数出土した墨書土器の中に良田地域の古い地名（明治4年に改称されるまで良田地域は荒田村だった）である「荒田（大内）」と記されたものが複数あり、その地名が奈良時代（8世紀）まで遡ることがわかった。

## 2 広報のポイント

### 中国地方最古となる7世紀末から8世紀初頭の文書木簡<sup>もんじょもっかん</sup>が出土

#### (1) 木簡の時期

7世紀末～8世紀初頭（飛鳥時代末）

#### (2) 木簡の大きさ

残存長18.7cm×幅2.5cm×厚さ0.5cm

#### (3) 出土場所

径約70cm、深さ45cmの穴（ピット）から出土した。木簡は2つに折れた状態で穴に捨てられていた。

#### (4) 内容

細長い板の両面に文字が墨書きされた文書木簡（もんじょもっかん）。肉眼ではすべての文字を判読することが難しいため、出土品整理作業において赤外線カメラで撮影、観察した結果、以下の文字が書き記されていると判明した。

< 釈文<sup>※1</sup> >

〔謹<sup>カ</sup>〕

【表】・「□□□御前□白寵命□

【裏】・「使孔王部直万呂午時

※□は木簡の釈文表記に係る符号で、欠損文字のうち字数が推定できるもの。

「□□□（人名か？）御前（謹）白」（某の<御>前に（謹みて）<sup>もう</sup>白す）の書式で書き出す文書木簡で、「前白木簡」ともいわれるもの。この書式は、大宝令（701年制定）の施行により解<sup>げ</sup><sup>※2</sup>や牒<sup>ちよう</sup><sup>※3</sup>といった文書様式が整えられる前の7世紀末を中心とした時代に多用されたもので、口頭伝達を文書化したものといわれる。

「寵命」は前白木簡によく見える語で、「寵命坐」として“上級者の命令をお伺いして”程度の意味で用いられ、この後に要件や品目が続く場合もある。

裏面には「使」に続き人物の姓名「孔王部直万呂<sup>あなほべのじき(なお)まろ</sup>」や「午時<sup>うまのとき</sup>」（＝昼の12時を中心とした前後2時間）といった文字が見られる。「孔王部直万呂」が物品の受け取り等要件の使者で、類例からみて「午時」は文書の発信時刻（“お昼頃”程度の意味か）と考えられる。

#### (5) 発見された木簡の意義

##### ①中国地方最古となる7世紀末～8世紀初頭の文書木簡が出土

中国地方から出土した7世紀末頃に遡る可能性のある木簡は、出雲国庁跡（島根県）出土例が知られるだけで、その機能（内容）は荷札あるいは歴名<sup>れきみょう</sup>とも考えられ、詳しくは分からない。今回の調査によって、良田平田遺跡で出土した木簡は、鳥取県内最古の木簡であるとともに、**確実な文書木簡**

**として中国地方最古のもの**といえ、当地域の古代史を考えるうえで貴重な発見となった。なお、「**龍命**」の文字が用いられた木簡の類例としては、藤原宮出土木簡（奈良県橿原市）、飛鳥京跡苑池出土木簡（奈良県明日香村）、西河原森ノ内遺跡出土木簡（滋賀県野洲市）、小敷田遺跡出土木簡（埼玉県行田市）があり、**地方木簡としては3例目**となる。

## ②良田平田遺跡に律令制施行以前から役所関連施設が存在

平成23年度の発掘調査によって発見された遺構・遺物により、平安時代前期（9世紀）には良田平田遺跡に役所関連施設（田畠の経営に係る管理施設か）が存在したことが明らかとなっている。

今回出土した木簡は文書様式が7世紀末から8世紀初頭のものであり、地方役所間でやりとりされた後、発出地に戻って廃棄されたと推測できる。同時期と推定される掘立柱建物跡や硯も見つかり、**律令制施行以前から良田平田遺跡に役所関連施設が存在した可能性が高い**。

## 3 一般公開

良田平田遺跡出土品の発掘調査速報展等を以下のとおり開催する。

### （1）良田平田遺跡発掘調査速報展

- ①会場 鳥取県立博物館 1階 歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナー  
※入館料（常設展 一般180円）が必要
- ②展示期間 平成25年3月6日（水）～4月7日（日）〔期間中は休館日なし〕
- ③展示資料 **文書木簡**（遺物保護の関係上、実物の展示は3月10日（日）までの5日間）、墨書土器、硯、遺構・遺物の写真パネル等

### （2）湖山池南岸に埋もれた歴史を探る—平成24年度の発掘調査—

- ①会場 県民ふれあい会館 1階 ロビー
- ②展示期間 平成25年3月12日（火）～3月18日（月）〔期間中は休館日なし〕
- ③展示資料 鳥取西道路の建設に伴い、平成24年度に財団法人鳥取県教育文化財団が湖山池の南岸で発掘調査した遺跡の出土品や写真パネルを展示  
(良田平田遺跡出土土器・銅製帯金具をはじめ、ひがしかつらみ東桂見遺跡、かつらみなべやま桂見鍋山遺跡、たかずみ高住平田遺跡、たかずみうしわだに高住牛輪谷遺跡、たかずみいでぞえ高住井手添遺跡、よしだなかみち良田中道遺跡で出土した土器、石器など)
- ④講演会 **調査報告講演会「湖山池南岸に埋もれた歴史を探る—平成24年度の発掘調査成果—**  
平成25年3月16日（土）午後2時～4時  
県民ふれあい会館 5階 講義室（聴講無料・申込不要、先着100名）

《用語解説等》

※1 釈文（しゃくもん）

読みにくい筆跡や漢文を、読みやすい字体・文体に直したもの。しゃくぶん。

※2 解（げ）

古代の文書様式の一つで、下位の役所が上位の役所へ上申する文書。

※3 牒（ちょう）

古代の文書様式の一つで、内外の主典（さかん律令制における「四等官制」（各官庁・官職の役員を原則として長官・次官・判官・しとうかんせい）の最下位の官。記録・文書の起草を担当したり、公文の読み役を務めたりした。）以上の官人個人が諸司に対して上申するために用いるとされているが、実際には上下関係にない役所間で用いられるなど、多様な使われ方がされている。